

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【香川県】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	香川県立高瀬高等学校 全学年 普通科 スポーツコース (1年：31人 2年：33人 3年：34人)
3 展開の形式	学校における活動 教科名 (専門体育 I・II・III)
4 目標 (ねらい)	パラリンピックの理解を通じて、他者への共感・思いやりなど、多様性を尊重する資質・能力の育成。
5 取組内容	①講演会に向けての事前学習 「パラリンピック大会の歴史や理念・価値についての学び」 ②講演会 講師 パラリンピックの陸上競技の選手 鈴木 徹 先生 演題 「 義足を翼に変えて 」 ③講演会後の事後指導 意見交換ディスカッション 講師の先生へのお礼の手紙  

6 主な成果	パラリンピックの位置づけや存在の価値などについて、さらに理解が深まった。 パラリンピック大会について、身近に感じることができるようになり、特に東京大会に興味を示すようになった。 鈴木徹選手をはじめとするパラリンピック選手への応援の気持ちが大きく膨らんだ。 自分より困難な状況でも競技に真剣に打ち込んでいる鈴木選手の話聞き、生徒それぞれが取り組んでいる部活動への意欲が高まった。 鈴木選手の話から、「基本の大切さ」「努力することの大切さ」「夢を持つことの大切さ」「スポーツが人を元気にする」「目標があれば自分に変化が起きてそれに向かって突き進めること」「興味のあることにはどんどん挑戦すること」「選択肢を増やし視野を広げること」「初めから強い人はいない」「良い選手は全てのことに自分と向き合える人」など、スポーツ選手としての大切な事柄をより理解することができた。 足を失う辛さより、周りの対応が辛いという事を聞き、納得することでき、社会の中にあるバリアを減らしていくことや、発想の転換が必要であることに気づくことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	講演会をより興味を持って聞いてもらうために、鈴木徹選手についての事前説明を丁寧に行った。 講師の鈴木先生を、より身近に感じてほしかったので、講演の会場を、手ごろな広さで絨毯敷のメディアルームで行った。
8主な課題等	講演会をするにあたり、講師の先生の決定や日程調整が大変である。 今回は講演会を中心とした取組だったが、希望としては、鈴木選手と一緒に走ってもらったり、実技しているところを見せてもらうことで、さらに親近感を持ち、理解を深めることができたのではないかと考える。
9来年度以降の実施予定	体験型の学習を希望。